

植樹式 2013



時の蘇生・柿の木プロジェクト

2月20日		長崎市立西北小学校 日本・長崎県・長崎市	1
2月23日		伊尾木忠霊塔広場 日本・高知県・安芸市	2
2月27日		りら創造芸術専修高等学校 日本・和歌山県・海草郡	3
3月7日		白梅幼稚園 日本・福島県・会津若松市	4
3月7日		東行仁幼稚園 日本・福島県・会津若松市	5
3月7日		富岡幼稚園 日本・福島県・会津若松市	6
3月8日		みずほエコパーク 殉国慰霊塔及び平和記念碑周辺 日本・東京都・西多摩郡	7
3月8日		スマイル・キッズ・パーク 日本・福島県・本宮市	8
3月9日		えぼか（本宮市民元気いきいき応援プラザ） 日本・福島県・本宮市	9
3月21日		A. バドーニ高校 イタリア・レッコ県・レッコ市	10
3月25日		タイムサイド小学校 イギリス・レディング	11
4月7日		タブローコート総合文化センター イギリス・タブローコート	12
4月7日		亡くなった元市長自宅近くの公園 イタリア・プレシア県・ベルリンゴ市	13
4月8日		ビバルディ中学校 イタリア・プレシア県・ボヴェッツォ市	14
4月9日		マリーニョ市庁舎の庭 イタリア・プレシア県・マリーニョ市	15
4月10日		G. マルコーニ小学校 イタリア・プレシア県・ムーラ市	16
4月10日		グリエルモ・マルコーニ国立理系高校 イタリア・フォッジャ県・フォッジャ市	17
4月11日		ウゴリーニ小学校 イタリア・プレシア県・プレシア市	18

目次

2020年 更新

4月11日		B & B ジョイフル・ピープル 19 イタリア・バリー県・アルペロベッロ市
4月13日		アウグスト・リギ科学高校 20 イタリア・ローマ県・ローマ市
4月13日		ジャンカルト・シプレッシー樹木園 21 イタリア・ペスカーラ県・マノベッロ市
4月27日		アレーマ協会本部 22 イタリア・サレルノ県・カーヴァ・デ・ティツレーニ市
5月15日		環境療法トラスト 23 イギリス・グロスターシャ・トツティントン

長崎市立西北小学校

🇯🇵 日本

📍 長崎県・長崎市

🌱 2013年2月20日

長崎市立西北小学校の5年生は2012年に総合学習で原爆のことを学びました。そこで、「被爆柿の木2世」が国内外にたくさん植樹されていることを知り、「被爆柿の木」の地元である西北小学校にもぜひ植樹をしたいと考えました。5年生は、実行委員会をつくり、校長先生や海老沼先生に相談し、植樹を自主的に計画し、今回の植樹となりました。子どもたちの声によって植樹が実現するのは初めてのケースです。

2月20日の植樹式では、全校児童に「被爆柿の木2世」の愛称を応募して決定した「元氣カッキー」の愛称が発表されました。体育館入口付近に植樹された柿の木に、子どもたちは一人一人土をかけていきました。

海老沼先生のあいさつの後、プロジェクトの代表の宮島からのメッセージが紹介され、子どもたちの「平和宣言 - 西北小の平和のシンボルとして大事に育て後輩に受け継いでいきます」との決意が発表されました。

西北小学校は、現在、海老沼先生の娘さん、仁美さんが先生として着任している学校です。



伊尾木忠霊塔広場

🇯🇵 日本

📍 高知県・安芸市

🌱 2013年2月23日



植樹の申しこみをしてくれた楠瀬孝子さんは、2002年2月17日の高知県立美術館の植樹式に参加し、いつか自分の町でも「被爆柿の木2世」を子どもたちとともに植樹したいと考えていました。柿の木プロジェクト in Aki 実行委員会をたちあげ、伊尾木地区社会福祉協議会との共催で、植樹式が企画されました。

2月23日の植樹式は、3部構成。第1部は、「被爆柿の木」の植樹場所である伊尾木忠霊塔広場にて行われました。忠霊塔広場は柿の実折り紙で、とても素敵に装飾されており、副市長、教育委員会も来賓として参加して下さい、地元の子どもたち、お年寄りがたくさん集まってくれました。佐々木実行委員長のあいさつの後、子どもたちに苗木の贈呈が行われ、プロジェクトの代表、宮島があいさつ、海老沼先生のメッセージ紹介、副市長のあいさつがありました。その後、1本の柿の木が子どもたちの手によって広場の角地に植樹され、参加者みんなで記念撮影をしました。その後、6人の子どもたちによる書道パフォーマンス、絵の具アートが行われ、素晴らしい作品が完成しました。

第2部は、伊尾木公民館に会場をうつし、実施されました。1階の部屋では、「AKI KAKI メッセージ展」も同時に開催され、地元の子どもたちや、楠瀬さんの呼びかけに賛同して下さったアー

ティストたちの作品も展示されていました。ここに作品を寄せて下さったアーティストは、高知出身のまんが家、くさか里樹さんの柿のキャラクターなど。2階の大ホールでは、子どもたちによる太鼓のパフォーマンスや共同作業所ホップあきのダンスパフォーマンス、尾崎あゆみさんの独唱に続き、子どもたちによる紙芝居「柿の木おやこ」の上演。また地元の婦人のフォークダンス、そして、最後は高知らしく、子どもたちによる「よさこい」でしめくくられました。その後、1階の展示室では、地元の高校生たちの指導により、灯籠の給付け、折り紙WSが開催されました。

第3部は、暗くなるのをまって、16時30分から、「時の洞窟」と名付けられた「伊尾木洞」に会場を移し開催されました。子どもたちが給付けした灯籠に火を灯し、洞窟の中は美しくライトアップされました。そこで、中山直一氏による創作ダンスが披露されました。洞窟全体、そして人々の中を縫うように大きな動きのある躍動感のある素晴らしいダンスパフォーマンス、幻想的な雰囲気の人々は魅了されました。

最後に参加者全員で、「ビリーヴ」を大合唱。大感動の中、楠瀬さんのあいさつで植樹式は終わりました。日本国内でここまでアトラティブな植樹式は珍しく、とても感動した一日でした。

いら創造芸術専修高等学校

🇯🇵 日本

📍 和歌山県・海草郡

🌱 2013年2月27日

山間部にあるいら創造芸術専修高等学校は、舞台美術を専門に学ぶ学校で、全校生徒は40人ほどです。元ダンサーの校長先生が、自然と芸術を学ぶ絶好の場所にとこの地を選び、廃校になった小学校を町から借りて経営しています。地域に古くから伝わり、近年途絶えていた民族芸能「真国御田春鋤規式（まくにおんだはるくわきしき）」を生徒たちが復活したり、4000人を超える人々が訪れる「世界民族祭」を毎年行ったり、地元住民と深く関わり、地域の活性化に大きく貢献しています。この学校の中嶋雄二先生の申し込により、柿の木プロジェクトが実施されました。先生は、2003年2月28日、奈良県十津川村の西川中学校の植樹も実現した方です。

2月27日の植樹式は大きなイベントの直後に予定されていたため、中嶋先生は準備不足にならないかと心配されていましたが、生徒たちの植樹したいという熱い思いが実り、時間がないにもかかわらず、運営から、出し物、展示、看板とすべて生徒たちの手作りという素晴らしい植樹式が実現しました。

植樹式では、山上範子校長先生、宮島達男の話と続き、2年生による演奏、タップダンスが披露されました。パフォーマンスを披露している生徒たちの顔は生き生きとしていて、引きこまれるような作品でした。

その後、学校敷地内の学校菜園に「被爆柿の木2世」を植樹しました。

植樹式の司会をつとめた生徒が柿の木に「ふさ志」というあだ名をつけました。ふさふさ繁ってほしいとの願いをこめたもので、このあだ名がその後、この柿の木の正式な名前に決定したとのことです。



白梅幼稚園

🇯🇵 日本

📍 福島県・会津若松市

🌱 2013年3月7日



2013年の福島の植樹は、福島芸術計画 x Art Support Tohoku-Tokyo の「つたえるプロジェクト」の一環で、福島県内5か所で実施されました。福島芸術計画 x Art Support Tohoku-Tokyo は、東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業で、福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施するもので、文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興の支援を目指しています。

2012年の6月30日の福島芸術計画 x Art Support Tohoku-Tokyo のキックオフフォーラムを皮切りに、福島県庁、福島県立博物館、福島県立美術館の協力のもと、「被爆柿の木2世」の里親募集の活動がスタート。2012年12月25日には、本宮市の公民館で柿の木プロジェクトの説明トークイベントも開催しました。

そのトークイベントに参加して下さった富岡幼稚園の先生の思いから、会津若松市の白梅幼稚園、東行仁幼稚園、富岡幼稚園の植樹申し込が届き、植樹へとつながっていきました。

白梅幼稚園の植樹式は、積雪が多く、園庭への地植えをあきらめて、年長クラス85名と一緒に、園舎内の大ホールで行われました。大ホールには、園児たちが事前に制作した絵がぶらさげである高さ2メートルほどの木が真ん中に置かれ、その横に柿の

木と大きなポットがあります。

橋本園長先生のお話の後、長崎から参加した海老沼先生、宮島達男の話と続きました。植樹の前には、「被爆柿の木2世」の苗木が、子どもたちのまわりをぐるっとまわされて、苗木を身近に見てもらいました。

今回のワークショップは宮島が担当しました。2月22日、植樹に先立ち、福島県立博物館の川延さん、小林さんの協力のもと、園児たちは、紙芝居「柿の木おやこ」を見て、絵を描きました。そして、自分の描いた絵を両手に持った全身写真を撮り、それを人型に切り抜き、棒をつけ、柿の木を守る「フェアリー（妖精）」を作りました。

植樹式では、柿の木を植樹した後に、みんなでこのフェアリーをまわりに置かれたプランターに立てて、柿の木を守るフェアリーにしていきました。また、子どもたちの描いた絵は会津塗の漆箱に10年間保管されることになっています。この植樹をお祝いしようと子どもたちからは、「世界に1つだけの花」の歌のプレゼントがありました。また、「ぽん菓子」もボランティアの方によって子どもたちの前でつくられました。「ぽん菓子」はお米に圧力をかけてつくるお菓子です。子どもたちは爆発音までカウントダウンのかけ声をかけ、ポン菓子が飛び散る様に歓声があがっていました。先生がつくったカラメルをからめて、みんなで美味しく食べました。最後にみんなで記念撮影をし、植樹式を終えました。その後柿の木は、3月28日に園庭に地植えされました。

東行仁幼稚園

🇯🇵 日本
📍 福島県・会津若松市
🌱 2013年3月7日



東行仁幼稚園は、先に植樹した白梅幼稚園と同じ園長先生が経営する幼稚園です。植樹式は、積雪が多く、園庭への地植えをあきらめて、年長クラス46名と一緒に、園舎内の大ホールで行われました。植樹式は、園児たちの発案により、「柿の木を元気にしよう会」と名付けられました。

白梅幼稚園と同様、ワークショップは宮島が担当しました。2月22日、植樹に先立ち、福島県立博物館の川延さん、小林さんの協力のもと、園児たちは、紙芝居「柿の木おやこ」を見て、絵を描きました。そして、自分の描いた絵を両手に持った全身写真を撮り、それを人型に切り抜き、棒をつけ、柿の木を守る「フェアリー（妖精）」を作りました。

植樹式当日は、橋本園長先生のお話の後、長崎から参加した海老沼先生、宮島達男の話の後に、大きなポットに植樹が行われました。子どもたちは順番に真中の柿の木のまわりに集まり、きれいに飾りつけられた発砲スチロールの箱にフェアリーを立てた後、柿の木に土をかけてい

きます。その時に、元気に育て!!とみんなが柿の木の幹を鈴なりになって撫でていました。

子どもたちの描いた絵は会津塗の漆箱に10年間保管されることになっています。子どもたちは一人ずつ、絵を先生に手渡しし、先生から海老沼先生と宮島に絵が託されました。園児の「カレンダーマーチ、ひょっこりひょうたん島、トレロカモミロ」の歌とダンスが披露されました。また、「ぽん菓子」もボランティアの方によって子どもたちの前でつくられました。「ぽん菓子」はお米に圧力をかけてつくるお菓子です。子どもたちは爆発音までカウントダウンのかけ声をかけ、ぽん菓子が飛び散る様に歓声があがっていました。

最後にみんなで記念撮影をし、ぽん菓子を食べ、参加者全員で再びひょっこりひょうたん島を踊り、柿の木が大きくなるようにみんなでお祈りし、植樹式を終えました。その後、柿の木は、3月28日に園庭に地植えされました。



富岡幼稚園

🇯🇵 日本

📍 福島県・会津若松市

🌱 2013年3月7日



そのトークイベントに参加して下さった富岡幼稚園の先生の思いから、会津若松市の白梅幼稚園、東行仁幼稚園、富岡幼稚園の植樹申し込が届き、植樹へとつながっていきました。



東日本大震災・東京電力福島第一原発の事故により、福島県双葉郡富岡町で運営していた富岡幼稚園は避難命令が出されました。会津若松市は相双地区を中心に被災者の受け入れ体制を図り、富岡幼稚園は、会津若松市にサテライト園を開園しました。園児は8人と小規模ですが、植樹式には、先生、保護者のみな様が大勢集ってくれました。



「被爆柿の木2世」の植樹は、富岡に帰れるようになったら、柿の木を持ち帰りたいとの思いから、巨大ポットに植えられました。一人ずつ土をかけた後に、園児たちは、柿の木におけて、元気に育つようにとパワーを送りました。白梅幼稚園、東行仁幼稚園と同様にフェアリーを柿の木のまわりに立てて、みんなで記念撮影をしました。この日、64歳のお誕生日を迎えた海老沼先生に、園児たちからお誕生日のお祝いの歌が贈られ、先生が涙するという感動のサプライズプレゼントもありました。

富岡幼稚園からの植樹申し込書に「放射能による被害という共通する過去を負わされてしまった柿の木と子どもたちに、この出来事命の大切さ、強さ、希望を忘れないようにしてほしい」と記載されていました。また、『避難中という困難な状況であっても、子供たちの健全育成にむけて努力を続け、帰還まで、会津ならではの思い出を1つでも多くつくりたい。』という先生方の思いが伝わってくる感動の植樹式でした。

みずほエコパーク 殉国慰霊塔及び平和記念碑周辺

🇯🇵 日本
📍 東京都・西多摩郡
🌱 2013年3月8日

瑞穂町は、石塚幸右衛門町長が、2012年の9月24日に産経新聞に掲載されたプロジェクトの記事を読み、申し込みをしてくださいました。

瑞穂町の殉国慰霊塔及び平和記念碑周辺には、「被爆アオギリ2世」や「被爆クスノキ」も植樹がされており、また町内8か所にアンネのバラを植栽するなど、平和意識の醸成をはかるために町をあげて、長年、取り組んできました。

今回の植樹は、植樹日を「第9回 平和メッセージ表彰式」の日と定め、植樹式に先立ち、平和メッセージを子どもたちや町民から公募していました。

3月8日の植樹式は、町長、教育長、町会議員をはじめ、町役場の関係者と、「平和メッセージ」の入賞者とその保護者が参加して行われました。2部構成になっており、第1部では、瑞穂ビュー

パークスカイホール近くの殉国慰霊塔及び平和記念碑周辺で実施、杉浦副町長のあいさつの後、事務局の宮島依子が海老沼正幸先生のメッセージを紹介しました。町長と小学校の部の最優秀賞受賞者、畠山さんと宮島依子の3人で「被爆柿の木2世」に土をかけました。続いて「被爆桜の木」も植樹され、みんなで記念撮影をしました。

第2部は、会場を瑞穂町町民会館に移し、表彰式が執り行われました。石塚町長と青山町議会議長のあいさつの後、表彰式が行われ、入賞者には記念品と柿の木ファイルの贈呈が行われました。受賞者は各自、自分の入賞作品を朗読しました。

瑞穂町では、この他にみずほエコパークにも「被爆柿の木2世」が植樹されました。



スマイル・キッズ・パーク

🇯🇵 日本



福島県・本宮市



2013年3月8日

本宮市からの、高松義行市長、教育委員会から届きました。本宮市内には中学校が3校あります。そのうちの1校である本宮市立第二中学校には、2000年2月14日に柿の木が植樹されています。今回はまだ柿の木がない2校、白沢中学校と、本宮市立第1中学校の生徒たちと是非植樹を！との声があがり実現したものです。

1月28日、植樹に先だち、白沢中学校では、1月28日に柿の木プロジェクト 事務局 宮島依子が事前学習を行いました。柿の木プロジェクトのDVDを見た後に、宮島が実施するフェアリー（妖精）作りについても説明しました。その後、白沢中学校の生徒一人一人に「10年後の自分へのメッセージ」を書いてもらい、そのメッセージとともに全身写真を撮ってもらいました。

そして、3月8日の植樹当日は、白沢中学校の体育館において、校長先生のお話、海老沼正幸先生から柿の木についてのお話があった後、宮島によるワークショップが実施されました。あらかじめ一人ずつ印刷しておいた写真を切り抜き、



棒をつけて、フェアリーの完成です。

白沢中学校からは代表15名が全校生徒のフェアリーを持って、スマイルキッズパークへ移動しました。そこでは、地元の方たちが餅つきの準備をして待っていてくれました。スマイルキッズパークは、放射能の問題から外で遊ぶことができない小さな子どもたちの屋内遊技場となっています。

植樹式では、海老沼先生、校長先生の話の後、白沢中学校の代表の生徒たちの手によって、土がかけられました。

お餅つきの準備をしてくださった地元のお年寄りのフェアリーも、その場で制作し、植樹式に参加してくれたみんな様全員のフェアリーを柿の木のまわりに立て、お祝いしました。

植樹後は、お餅つきをして、みんなで美味しくいただきました。

フェアリー作成時に生徒たちが書いた「10年後の自分におけたメッセージ」は、その後タイムカプセルに入れられて、スマイルキッズパークに埋められることになっています。

えぽか（本宮市民元気いきいき応援フラガ）

🇯🇵 日本
📍 福島県・本宮市
🌱 2013年3月9日



本宮市からの申し込は、高松義行市長、教育委員会から届きました。本宮市内には中学校が3校あります。そのうちの1校である本宮市立第2中学校には、2000年2月14日に柿の木が植樹されています。今回はまだ柿の木がない2校、白沢中学校と、本宮市立第1中学校の生徒たちと是非植樹を！との声があがり実現したものです。

植樹に先立ち、えぽかの2階会議室で、プロジェクトを理解していただくため、柿の木プロジェクトのDVDを鑑賞し、海老沼先生からお話がありました。その後、宮島のワークショップ「フェアリー（妖精）をつくろう！」が実施されました。福島芸術計画、福島県庁、福島県立博物館、福島県立美術館の方々が、植樹式に集った方の写真をその場で撮り、すぐにプリントアウトするという素晴らしい動きで、参加者が各自フェアリーを切り抜き、棒をつけてフェアリーを完成。本宮市立第1中学校の生徒会の子たち、えぽかに遊びにきていた「放課後クラブ」の子ど

もたち、また、ここの植樹の特徴としては、高松市長をはじめ、市の職員の方々が多く参加してくださったので、「おじさんフェアリー」、お餅つきを手伝ってくださった婦人会のみなさんの「おばさんフェアリー」が多数制作され、みんな様楽しそうに、とてもおもしろいものになりました。

植樹式は屋外に会場を移して実施されました。植樹場所は、駐車場の緑化帯です。市長、教育委員長、福島県文化振興課長のあいさつの後、海老沼先生と宮島もあいさつをしました。植樹は、ま新しいスコップに大きなりボンがつけてあり、みんな白手袋をしての厳かなものとなりました。その後植樹された柿の木のまわりに各自がフェアリーを立て、記念撮影を行いました。

最後のお餅つきは、えぽかのロビーで行われました。長い棒を8人ぐらいでつく、特徴的なお餅つきで、えぽかに遊びにきていた小さな子たちも参加、みんな様にお餅がふるまわれました。とても美味しいお餅でした。

フェアリー作成時に生徒たちが描いた10年後の自分におけたメッセージは、その後タイムカプセルに入れられて、えぽかに埋められることになっています。10年後の再会が楽しみです。



A. バドーニ高校

 イタリア

 レッコ県・レッコ市

 2013年3月21日

レッコにあるA. バドーニ高校では、毎年1年生の生徒たちに、学校でのガーデニングというプロジェクトに関わらせており、環境科の生徒たちは高齢者の方々と一緒に、野菜や薬草を育ててきました。高齢者の方たちは生徒たちを自発的に助けてくださいます。A. バドーニ高校の先生方が柿の木プロジェクトに参加したいと思った理由は、「生徒たちが自然に親しみを持ち、環境に関心をもつように学ばせる」、「平和と命あるものへの思いやりを学ばせるなど」、10の理由からです。

3月21日の植樹式は、生徒、生徒たちの父母、教師、校長先生、レッコ市の関係者が大勢集い、最初は講堂で行われました。1年A組のリッカルドくんと、キアーラさんによって開会のスピーチが読みあげ、植樹式は始まりました。プロジェクトの意義が先生によって説明され、先生方、来賓の方のスピーチと続きました。また、生徒たちによる俳句や詩も紹介や、ギター、フルートの演奏もありました。続いて、全員で屋外に移動し、「被爆柿の木2世」の植樹が行われました。生徒の代表によって土がかけられ、柿の木の横には立派な看板が立てられました。



タイムサイド小学校

🇬🇧 イギリス

👤 レディング

🌱 2013年3月25日

タイムサイド小学校は、さまざまな文化的、社会的背景を持った児童300人が在籍する公立の小学校です。児童の30%が英語を第2外国語とし、校内では31カ国語が話されているとのこと。柿の木プロジェクト、事務局の宮島依子の友人であり、この小学校に2人の子どもを通わせる保護者の一人、カチャさんが校長先生に柿の木プロジェクトのことを紹介し、校長先生が植樹をんでくださいました。

植樹式に先だち、3月12日と13日に事前ワークショップが開催されました。小学校には、ペアレントフォーラムという非常に活動的な保護者の会があり、このフォーラムには創造的な親たちが多く参加しています。今回はこのフォーラムの親たちが中心になって指導にあたり、事前ワークショップで、子どもたちは、布やモールを使用し、人形をつくったり、植物の押し絵制作、色紙で大きな葉をつくったりしました。また、子どもたちには柿の木にちなんだ絵画・工作制作が宿題としてだされました。



3月25日の植樹式当日は、最初に校庭にて、柿の木の植樹を行いました。柿の木のまわりはかわいく飾りつけられていました。その後、体育館に移動し、自分たちが制作してきた作品の発表会が行われ、子どもたちによるバイオリンとオルガンの演奏も行われました。

その後、作品は体育館に展示され、多くの保護者や近隣の方が学校を訪れ、作品を鑑賞しました。さらには、お菓子づくりも行われています。

植樹から10日後の、4月6日に宮島依子が小学校を訪問し、植樹された柿の木の写真をとってきました。



タブローコート総合文化センター

🇬🇧 イギリス

📍 タブローコート

🌱 2013年4月7日

ロンドンのテムズ河畔の丘に立つイギリス SGI-UK (Soka Gakkai International-UK) の「タブローコート総合文化センター」は、ヒースロー空港から車で約30分の距離にあり、国の「歴史的建造物」に指定される文化遺産。1989年の開館以来、平和展示や、芸術祭、家族祭をおこない、地域の人々も自由に入出りできる、人々から愛される建物となっています。館内には、過去の歴史（所有者の変遷など）を展示し、資料を集めた図書室などもあります。

広大な敷地の中で「被爆柿の木2世」は「追悼の庭」とよばれるガーデンに植樹されました。

柿の木プロジェクト 事務局、宮島依子の友人で、ロンドンに住み、タイムサイド小学校の植樹にも尽力してくれたカチャさんの紹介で、タブローコート総合文化センターのガーデナー長であるフィルさんが植樹をんでくれました。

植樹式は大勢の子どもたちと、その保護者たちと一緒に行われました。植樹予定場所のレンガの壁には、「MEET THE KAKI」と大きく書かれた文字と、大きくなった柿の実の写真が展示されていました。

青年平和委員会の代表者のあいさつ、宮島依子のあいさつの後、フィルさんが海老沼先生からのメッセージを代読してくれました。

柿の木には子どもたちがシャベルで、順番に土をかけていきました。レンガの壁には金色の立

派な柿の木のためのプレートが埋め込まれ、子どもたちの代表2名により、除幕が行われました。代表の子どもたちの詩が紹介され、リボンをつけたひしゃくで、子どもたちは順番に水をかけていきました。ここで一度みんなで記念撮影。



次に場所を室内にうつし、そこで20名ほどの子どもたちによる演劇パフォーマンスが行われました。原爆によって弱った柿の木が元気になり、希望におかたて進んでいく様子を子どもたちは見事に演じてくれました。最後に子どもたちと指導にあたった青年部の方たちが一人ずつ自分の決意発表をして、演劇パフォーマンスをしめくりました。

最後は、みんなで広い芝生の広場におかいました。そこで、フィルさんを中心に丸くなりました。ここには、演劇に出ていなかった子どもたちも大勢参加。赤、青、黄色の風船を子どもたちは各自、手に持ち、大きな声でカウントダウンし、空高く風船をとばしました。3色の風船が大空に舞うのを子どもたちは歓声で見送り、素晴らしい植樹式となりました。

亡くなった元市長自宅近くの公園

🇮🇹 イタリア

📍 ブレシア県・ベルリンゴ市

🌱 2013年4月7日

2013年のフランチャコルタ平和行進は、ベルリンゴからスタートしました。

2012年12月に、ベルリンゴの当時の市長は、フランчесコ氏とあい、2014年に「被爆柿の木2世」の植樹を希望していることを伝えました。そして、そのミーティングの数日後に元市長は事故で亡くなってしまったのです。そのことを知ったフランчесコ氏が柿の木プロジェクト事務局に連絡をし、海老沼先生の許可を得て、元市長の追悼の意をこめて、ベルリンゴ市に苗木の贈呈が行われることになりました。4月7日の苗木贈呈式には、元市長の奥様と子どもたちが参加してくれました。

苗木贈呈式の後、フランチャコルタの平和行進ははじまりました。「Pace（平和）」の旗をつけた車に先導され、大きなPACE（平和）の旗を大勢の子どもたちや大人たちがまわりを囲み、行進は町の中を約3時間かけて進みます。途中で、参加者全員で手をつなぎ、平和への祈りを捧げました。

行進はさらに進み、パトカーも先頭に加わり、ドン・アンジェロ・コロombo財団に到着しました。

ベルリンゴ元市長のご冥福を心からお祈りもうしあげます。



ビバルディ中学校

🇮🇹 イタリア

📍 ブレシア県・ボヴェッツォ市

🌱 2013年4月8日



フランチェスコ氏の車でボヴェッツォの町に入ると幼稚園の子どもたちが長い列をつくり、先生に連れられて、柿の木プロジェクトの植樹式に参加するために、ビバルディ中学校にむかっているかわいい姿を目にしました。

ビバルディ中学校に到着し、体育館に足を踏み入れると、そこには市長、副市長をはじめ、たくさんの中学生、小学生、先生方や保護者の方が既に集っており、大きな拍手で出迎えられました。町をあげて柿の木を出迎えてくれています。

体育館の壁には、子どもたちが調べた柿のこと、柿をつかった料理のレシピなどさまざまな研究発表や柿の実折り紙による飾り付けがなされています。また渡り廊下にも柿の実折り紙がたくさんぶらさげてあり、とても熱心に準備してくれた様子がうかがえました。

植樹式は、2人の中学校の先生の司会によって、スタートしました。

最初に地域のお年寄りたちの合唱があり、続いて子ども議会のメンバー7人が前に出て、議長があいさつしました。副市長、市長、フランチェスコ氏のあいさつに続き、子どもたちのパフォーマンスがスタートします。幼稚園の子どもたちによる歌とお遊戯、小学生によるリコーダーの演奏し、詩の朗読がありました。

中学生たちは、創作ダンスを演じてくれました。最後に全員でPACEの人文字をつくりあげてくれたのがとても印象的でした。続いて、中学生による詩の朗読、歌も披露されました。

最後に、子どもたちの指導にあたってくださった先生方のあいさつがありました。

植樹は校庭に移動し、行われました。植樹された柿の木の前で、海老沼先生のメッセージ、柿の木ふるしきの贈呈が行われました。また、最近恒例となっている植樹に使用したシャベルの柄に海老沼先生がサインしました。植樹後、海老沼先生は、中学生たちにサイン攻めにあっていました。

マリーニョ市庁舎の庭

🇮🇹 イタリア



ブレシア県・マリーニョ市



2013年4月9日

マレッニョはカステニャートから列車で約1時間ほどいったところにある町です。

植樹は小学校の先生からみがありました。小学校が市役所に柿の木プロジェクトへの参加を報告したところ、市役所が全面的に協力して植樹式が行われることになりました。また、市役所が運営する図書館もさまざまな活動を通じて柿の木プロジェクトの広報に協力しています。

町に到着すると、市庁舎の建物の前面には、大きな虹色の「PACE」の旗がかかっています。

会場の前庭には、すでにたくさんの人々が集まっています。村の高齢者一人一人に、植樹式の招待状が送られ、お年寄り、町の人々、マレッニョのすべての幼稚園、小学校、中学校が植樹式に参加してくれました。

植樹式は、市長のあいさつから始まりました。小学校の先生のあいさつ後、子どもたちのパフォーマンスが行われました。小学生による詩の朗読、「ブローインザウインド」のリコーダー

の演奏が披露されました。歌に続き、マレッニョの平和メッセージの発表は、16名の子どもたちがアルファベット一文字ずつ描いた紙を頭の上に掲げ、素晴らしく、大きな拍手がおこりました。

フランチェスコ、海老沼先生のあいさつに続き、植樹が行われました。

植樹は、男の子と83歳の老人の二人の代表によって、大きなシャベルで苗木に土がかけられました。植樹された柿は、司祭から祝福のメッセージが送られ、参加者全員で祈り、最後に司祭が柿の木の前で祝福と黙とうを捧げました。

植樹の後には、中学生と幼稚園の子たちのパフォーマンスが披露されました。

子どもたちが色とりどりに塗られた小石を柿の木のマわりに並べ、柿ふろしき贈呈の後、小学生による歌で植樹式が締めくくられました。歌の最後に折り紙を手に持ち、羽をバタバタさせていたのが、とてもかわいく印象的でした。



G. マルコーニ小学校

🇮🇹 イタリア

📍 ブレシア県・ムーラ市

🌱 2013年4月10日



ムーラはイドロ湖から20キロほどのところにある美しい山々に囲まれた平和な村です。

植樹は、G・マルコーニ小学校の校長先生からみがありました。植樹場所は、村の教会近くの公園です。その公園の土壌は肥沃で、たくさん木や花がすくすくと育っています。

カストの楽団による「歓喜の歌」で植樹式は、スタートし、アンドレア・クレシーニ村長のあいさつの後、小学生の歌が披露されました。続いて、G. マルコーニ小学校のマリウッチャ・マスカード・リ校長先生のあいさつがありました。幼稚園生と小学生の詩の朗読、歌に続き、海老沼先生があいさつをしました。

カスト楽隊の演奏の中、柿の木が植樹されました。

柿の木のまわりにはきれいないろいろな色で塗られた少し大きな石が並べられ、立派な立て看板も立てられました。立て看板には、「平和について話すだけでは不十分です。平和を信じなければなりません。平和を信じるだけでは十分ではありません。それを得るために働かなくてはならないはずです。」とイタリア語と日本語でメッセージが描かれています。



グリエルモ・マルコーニ国立理系高校

 イタリア

 フォッジャ県・フォッジャ市

 2013年4月10日

グリエルモ・マルコーニ国立理系高校では、学校や地域のプロジェクトを通して、長年にわたり、平和というテーマについて取り組んできました。14歳から19歳までの生徒たちがこの学校に属しており、柿の木を通して、生徒たちに平和への標示、平和問題に関する意識の啓発ができることを期待し、ミッシェル先生が植樹の申し込みをしてくれました。

4月10日の植樹式には、フォッジア州の副知事、フォッジア市長をはじめ、地域の方、保護者など、多くの人が集ってくれました。最初は講堂で、来賓のあいさつがあり、その後、教会の司祭からの話がありました。高校生たちは、パワーポイントを使い、原爆についての研究発表を行いました。また、和服姿の原ひろこさんによる、原爆の体験発表は、多くの人々の心を打ちました。

海老沼先生からのメッセージの代読、再び高校生による「柿の木プロジェクト」の研究発表があり、ミルカ氏による1990年代のユーゴスラビア戦争の話もありました。



むようにたっている校舎の窓から顔を出しています。また、校舎の窓からは7色



の長い布が垂れ下げてあり、メッセージがかいてあります。柿の木の横には、大きな石につけられたサインボードが置かれました。

柿の木には、白い花で作られたリースがかけられ、白いリボンが結ばれて、窓から顔を出している高校生たちの大きな歓声で植樹はおわりました。

再び、講堂に戻り、ルーツウィングネットワークからの報告をきき、ギターとフルート演奏による歌が披露されました。女子高校生たちによる新体操のリボン演技と男子高校生による歌、最後は全員が彼らを囲んで集まり、大きな歓声の中、3時間にわたる植樹イベントは、締めくくられました。

柿の木の世話は、フォッジア大学の農学部と協力して、行っていくことになります。



ウゴリーニ小学校

🇮🇹 イタリア

📍 ブレシア県・ブレシア市

🌱 2013年4月11日

ブレシアの中心にあるウゴリーニ小学校では、2012年から2013年にかけて、5年生の複数のクラスで、「平和」というテーマをとりあげています。その学習の中で、毎年1月27日に「記憶の日（国際ホロコースト記念日）」があり、これは第二次世界大戦の時にユダヤ人に対して行われたホロコーストの犠牲者を追悼する日を考えます。また、同時に、第二次世界大戦の恐怖を語り継ぐときに、世界で初めて日本に原子爆弾がおとされたことと、数多くの犠牲者がでたという話をしています。そして、ブレシアには平和について語る日がもう一つあります。それは5月28日です。1974年、ブレシアのある広場で虐殺がおきた日で、平和のための集会に参加していた人たちの8人の命が奪われました。

これらのことから、「柿の木」によって「平和のコンセプト」を植えたいという希望がみんなの中に大きくあります。

植樹が行われるウゴリーニ小学校には、町の人々がたくさんの方が集っていました。

植樹をしてくれたロサ先生のあいさつの後、アルプス歩兵旅団の代表の方の指揮のもと、子どもたちのリコーダーで「君が代」、「イタリア国歌」の演奏中、日本とイタリアの国旗が順番におごそかに掲揚されました。子どもたちは、日の丸を意識して、白と赤の洋服をきており、イタリア国歌を元気に歌ってくれました。

子どもたちの代表による詩の朗読、フランチェスコ氏、海老沼先生のあいさつに続き、柿の木



ふろしきの贈呈が行われました。海老沼先生には、植樹地からペナントと本が贈られました。

その後、アルプス歩兵旅団の男性たちに先導され、植樹場所まで、移動。

学校の先生のあいさつの後、柿の木が植樹されました。

最後は、高学年の子どもたちが「We are the World」の歌を英語で歌ってくれて、植樹式をしめくくってくれました。

B & B ジョイフル・ピースル

🇮🇹 イタリア

📍 バーリ県・アルベロベッロ市

🌱 2013年4月11日

アルベロベッロでB&Bを経営するドメニコ・スタニッシさんは、日頃から平和について関心を持っており、数年前に広島を訪問し、平和への思いをさらに強くされ、植樹をんでくれました。



当初B&Bというプライベートな場所での植樹はどうかという声も柿の木実行委員の中からありましたが、ドメニコ氏のB&Bには、世界中からお客様がこられ、また、彼はアルベロベッロ市や、地域の学校、地元の方を巻き込んで、その方たちと一緒に、日常において世界平和に貢献するためには、私たち一人一人が何をすべきかをよく話しあいながら、見事な植樹式を企画してくれました。

植樹予定地は、白い小石と、木で素敵にデザインされており、真中には大きな直径1メートルぐらいの花壇があります。4月11日の植樹の朝、先生に連れられて、子どもたちとその保護者たちが近くの小学校からやってきました。ドメニコ・スタニッシさんのスピーチで、長崎はどこなのか、柿の木のこと、柿の木プロジェクトのこと、他の植樹地の様子、原子爆弾ファットマンの写真などを子どもたちに見せながら、説明がありました。続いて、市長、校長先生のあいさつがあり、「被爆柿の木2世」が植樹されました。代表の子どもが土をかけ、順番にジョウロで水をかけていきます。海老沼先生のメッセージの代読の後、首からアルファベットの文字をかけた子どもたちからは詩の朗読、歌が披露されました。みんなで白い風船を空にとばし、用意してきた柿の実を形どって棒をつけたものを植樹した柿の木のまわりに立てて行きました。柿の木の横には看板も立てられました。



アウグスト・リーギ科学高校

🇮🇹 イタリア



ローマ県・ローマ市



2013年4月13日

アウグスト・リーギ高校の生徒、ロレンツォさんが2011年8月に亡くなったことに対して、追悼の意をこめて、植樹はまれました。

1000人ほどが通う校舎は別のところにあるようですが、植樹式は、20世紀始めの建物の前庭で行われました。建物内では、亡くなった生徒さんの追悼の映像が流され、天井からはたくさんのメッセージが糸でぶらさげてあります。

校長先生、美術担当の先生のあいさつの後、チェロの演奏の中、白いおそろいのシャツを着た生徒による詩の朗読、ギリシャ神話の悲劇の一幕が紹介されました。また、中国に伝わる、柿の木にまつわる七つの徳の話、「長寿」「強い」「美しい」「豊穡」・・・（注釈後述）もありました。その後、生徒達の歌が披露され、フランチェスコ氏、海老沼先生のあいさつと続きました。

植樹は、生徒一人ずつが柿の木に土をかけていきました。最後に苗木にオレンジのリボンが掛けられました。

ご遺族に柿の木ふろしきが贈られ、ロレンツォさんのお父様より、お話がありました。ロレンツォさんのご冥福をお祈りいたします。



* 柿の七徳について

俗謂柿樹有七徳。一寿。二多陰。三無鳥窠。四無蟲。五霜葉可翫。六嘉実。七落葉肥大。

（太平広記巻411所引『酉陽雜俎』）——「俗に、柿の樹には、ずばぬけた長所が七つあるという。一は、寿命が長い。二は、日蔭が多い。三は、鳥の巣がない。四は、虫がつかない。五は、霜葉が鑑賞できる。六は、果実がよい。七は、落ちた葉が肥えていて大きい。」

（今村与志雄氏訳）



ジャンカルト・シプレッシー樹木園

🇮🇹 イタリア

📍 ペスカーラ県・マノペッロ市

🌱 2013年4月13日

サンタ・マリアアラボナに新しくジャンカルト・シプレッシー樹木園がオープンし、「被爆柿の木2世」は、この樹木園に植樹されました。まわりに美しい山々をのぞむ広大な樹木園には90種類以上の樹木が集められていますが、柿の木はこの樹木園の中で最も重要なものとするために、樹木園の中心に植樹されました。



植樹の申し込をしてくれたジャーナリストのシンチア・トットさんは、この新しい樹木園が近隣の人々に対して開かれた場所となり、もっとよく植物のことを知ろうと思う人は誰でも来られるようにしたいと思っており、特に子どもたちには、ここの樹木を通して、自然や他のものを尊重する意識を高めてほしいという熱い思いがあります。

4月13日の植樹式には、近隣の小学校からバスに乗って、子どもたちが次から次へと到着します。樹木園に到着した子どもたちは、到着順に少人数のグループごとにガイドツアーに参加しました。このガイドツアーは、ミュージアという団体によって行われています。ミュージア

は樹木園内のガイド付きツアーを実現するために2012年に設立されました。シンチア・トットさんもミュージアの設立メンバーの一人です。ガイドツアーでは、移動しながら、さまざまな樹木の説明をしてくれます。そして、最後に子どもたちは、小さなプリンカップくらいの大きさの鉢に種を植えました。子どもたち全員のガイドツアーが終わったところで、人々は植樹場所に集まります。

小学生たちは丸くなってすわり、保護者の方、近隣の方も大勢参加してくれました。高校生によるバイオリン、チェロの弦楽器の素敵な音色で植樹式が始まりました。子どもたちからは詩が披露されました。そして、子どもたちの手によって柿の木にかぶせてあった細長い筒がとりのぞかれ、二人の庭師による柿の木の植樹が行われました。柿の木が植樹されている間、ずっと演奏は続いています。その後みんなで司祭様の話を聞きました。最後は子どもたちの素敵な歌が3つのグループから披露されました。



植樹後は、この樹木園でみんなで軽食を食べ、お祝いをしました。



アレーマ協会本部

🇮🇹 イタリア

📍 サレルノ県・カーヴァ・デ・ティッレーニ市

🌱 2013年4月27日



サレルノの植樹は、アレーマ協会というボランティア協会のブルーノ・ベルトンさんからの申し込があり、実施されました。アレーマ協会は、さまざまな年齢層の人々で構成されているボランティアの団体で、25年間にわたり、いろいろな活動を通じて、友愛・団結・平和と自然を敬うということを目指しています。アレーマ協会では、2013年に第二次世界大戦がこの場所、サレルノにもたらした悲劇について考え、「マンマルチア」という人物について学びます。この流れから、第二次世界大戦の中、生き残った「柿の木」について、子どもたちと学び、植樹をしたいと考えました。まだ、アレーマ協会は、地域の学校や幼稚園とも深く関わりをもっており、「学習菜園・庭園」、「コウモリ（救わなければならない友達）」、「蝶の庭」、「穀物のサイクル」などのテーマをかかげ、子どもたちの教育に関わっています。柿の木プロジェクトは、「学習菜園・庭園」のテーマの中で、実施されています。

4月27日の植樹日は、アレーマ協会の本部にカーヴァ・デ・ティッレーニ市の「第三区小学校」の

子どもたち、その家族、カーヴァ・デ・ティッレーニ市の代表者たち、小学校の校長先生、アレーマ協会の代表者が集まりました。

アレーマ協会の代表、ランビアッセ・ドメニコさんのあいさつに続き、海老沼先生からのメッセージが代読されました。ブルーノさんは子どもたちに写真を見せながら、柿の木プロジェクトの歴史、柿の木を平和の象徴として紹介しました。続いて、幼稚園生、小学生の子たちがワークショップが披露されました。

アレーマ協会の本部の「菜園・庭園」のコンクリートの壁には、大きな虹の絵が描いてあり、日の丸がはってあります。柿の木はその壁のすぐ前に植樹されました。伝統的な衣装を身につけた人々によるラッパの演奏があり、子どもたちの代表が「被爆柿の木2世」に土をかけていきました。

植樹式の最後には、タリ・ソレックの「色の箱」という詩が朗読され、イベントについての短い感想を生徒たちがよみあげられました。

環境療法トラスト

🇬🇧 イギリス

📍 グロスターシャ・トッティントン

🌱 2013年5月15日

計画環境セラピートラストは感情的、心理的に傷をおった子どもや大人の治療へのサポートをする機関です。

今回の計画環境セラピートラストでの植樹は、2006年3月26日にイギリスのエジャートン墓地の植樹を申し込みしてくれたジョナサン・アダムソンさんが、中心となって実施されました。

植樹に先駆けて、ジョナサンさんは、ブルース・アレンさん（2002年、イギリスのネイチャーインアートの植樹申し込者）の協力を得て、柿の木についてのさまざまな情報を展示しました。

植樹式の当日は、ウィーラージ小学校の子どもたちが参加し、計画環境セラピートラストの壁には彼らが植樹に先駆けて、制作した絵と詩の展示が行われています。

参加者は、最初に庭に出て、植樹場所を取り囲むように丸く集まりました。ジョナサンさんのスピーチの後、ブルース・アレンさんもスピーチをしてくださいました。植樹された「被爆柿の木2世」に、子どもたちが二人ずつ交代で土をかけていきます。

そして、屋内に移動。ウィーラージ小学校の子どもたちが音楽とダンスのワークショップを披露してくれました。

最後は子どもたちの感動的な歌があり、参加者たちも一緒に歌いました。昼食ときには、子どもたちのために、アーニー・トーマスさんが、手回しオルガンの演奏をしてくださいました。

